

1 文献名
『海ほがら』
2 学校名
若松小学校
3 災害名
昭和 28 年（1953 年）台風第 13 号
4 記述の概要
<p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>海岸に出ると、恐ろしい波がいくつもいくつも荒れくるいながら押し寄せ、飛んでくる砂が顔や手足に痛く、そのうち家の屋根におおいかぶさる波が白いしぶきをあげてきた。（P122）</p>
<p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>十三号台風によって伊勢湾岸は大きな被害を受け、若松も例外ではなく、特に浜田地区が大きな被害を受けた。（P121）</p> <p>浜田沖の堤防が全面的に決壊し、堤防脇の人家が土砂で埋まった。（P64、122）</p> <p>若松海岸地区で床上・床下浸水があり、被害が多かった。（P157）</p>
<p>（3）復旧の様子</p> <p>うそのような晴天となった翌日、先生たちは、被害にあった児童の家を一軒一軒まわったが、勉強道具は流されたり、使えなくなったりで、勉強どころではない状態だった。後で市から学用品を支給されたり、台風の作文集を作るなどした。（P122）</p>
<p>（4）体験談</p> <p>家に帰ると、水面がずんずん夕方の町の中に気味悪く上がってきた。すでに床上浸水の家が出てきたので、生後六か月の赤ん坊をつれて夫とともに避難した。太田風呂屋と清水酒屋との間の道は腰まで濁流がうずまき、つけものだるの中のものや木片が流れてくる中を、側溝に足をとられないよう気づかいながら、こわれた洋傘を片手に足を運んだ。小学校の子どもも、懐中電灯を片手に、避難場所の西運寺に向かっていた。（P122）</p>
<p>（5）教訓など</p>
<p>（6）その他</p>